

新しく「ふたば組」が加わる 町内各保育所で入所式

4月5日、新しい入所児を迎えての入所式が各保育所で行われ、児童や保護者、地域の方々などが参加しました。只見保育所の入所式では入所児全員の紹介が行われ、先生から名前を呼ばれた児童たちは「はいっ！」と笑顔で返事をし、元気な姿を披露しました。今年度の児童数は、只見保育所25名、朝日保育所34名、明和保育所29名となり、今年4月から全保育所で1歳児の組「ふたば組」が新設され、さくら組(5歳児)からふたば組までの5組体制で保育業務を行っていきます。



▲入所児紹介で元気に返事をする只見保育所児童のみなさん

子どもから大人まで華麗な舞を披露！ 第17回春待ちチャリティー演芸会



▲寄付金を手渡す赤塚ミワさん(右)



▲華麗な踊りを披露する皆さん

4月8日、季の郷湯ら里を会場に「第17回春待ちチャリティー演芸会」が開かれ、桜の丘みらいの方々など約200名が来場しました。はじめに菅家町長が「長い歴史をもつこの演芸会では、これまで100万円を超える額を町の社会福祉に寄付されており、関係者の皆さまには感謝申し上げます」と挨拶し、続いて事務局の赤塚ミワさんが「社会福祉に役立ててください」と今年の演芸会の収益金117,736円を菅家町長へ手渡しました。演芸会では、町内外から参加した愛好者による35演目が披露され、その華麗な踊りに会場からは大きな拍手が贈られました。

自然と保全への取り組みを学ぶ 世界自然遺産・小笠原諸島に関する講演会

4月15日、世界自然遺産に登録されている東京都の小笠原諸島の自然と保全の取り組みをテーマとした講演会が只見振興センターで開かれ、約20名が参加しました。

この講演会は只見の自然に学ぶ会が主催したもので、小笠原諸島の生物の進化などを研究している首都大学東京助教の加藤英寿さんが講師を務めました。講演会では、独自の進化を遂げた生態系や貴重な自然環境を守る保全活動の事例などが説明されたほか、手つかずの自然が残る南硫黄島の調査映像が紹介され、只見ユネスコエコパーク推進にも活かせる内容となっており、参加者は自然と保全の在り方について理解を深めました。



▲小笠原諸島の自然や保全の取り組みについて学ぶ参加者の皆さん

祝！2名の方が満百歳で知事賀寿を贈呈 4/12只見在住の酒井ハルさん

只見字宮前在住の酒井ハルさんが4月12日に満百歳の誕生日を迎えられ、ご家族同席のもと知事賀寿贈呈式が同日、自宅で行われました。

贈呈式では、県から知事賀寿状と記念品、町からはお祝い金などが贈られ、長男の雅文さんが「母はご飯をよく食べるとも元気です。これからも元気に長生きしてもらいたい」と述べられました。

ハルさんは子ども4人、孫4人、ひ孫3人に恵まれ、1日3食しっかり食事をとり好き嫌いしないことが長寿の秘訣とのことでした。



▲花束を手にするハルさんご家族の皆さん

4/15叶津在住の長谷部ヒサエさん



▲花束を手にするヒサエさんご家族の皆さん

4月15日、叶津字下八木沢在住の長谷部ヒサエさんが百歳の誕生日を迎えられ、ご家族同席のもと知事賀寿贈呈式が同日、旅館みな川で行われました。

贈呈式では、県から知事賀寿状と記念品、町からはお祝い金などが贈られ、長男の正之さんが「母のために身に余るものをいただき、家族一同御礼申し上げます」と謝辞を述べられました。

ヒサエさんは子ども5人、孫7人、ひ孫7人に恵まれ、果物や餅が好物で3食しっかり食べることが長寿の秘訣とのことでした。

只見町ブナセンター ブナセンター講座

「野生動植物を守るために-生物多様性保全の科学と社会学」

3月31日、町の自然環境や野生動植物を守ることをテーマにしたブナセンター講座がただみ・ブナと川のミュージアムで開かれ、約20名が参加しました。講座では福島大学共生システム理工学類・教授の黒沢高秀氏を講師に迎え、県内外の自然環境が損なわれた事例やその原因などについて講話されました。自然環境を守るためには、守る対象の生態や特徴を理解し、その対象にあわせた方法をとることが大切であると話され、参加者は自然環境や野生動植物を守るための考え方について理解を深めました。



▲自然環境や野生動植物の保護について理解を深める参加者の皆さん

農業の広がり目指す！6次化商品や担い手育成の環境を整備！

合同会社ねっかのテイastingルーム完成！

4月18日、地元農家などで作る焼酎製造販売会社「ねっか」が、梁取地区の醸造所に米焼酎ねっかの試飲スペース「テイastingルーム」をオープンし、お披露目式が行われました。この施設は、同社が新たな観光拠点として町の魅力の発信や農業振興の活性化を図るために設置したもので、事務所として使っている古民家の一部を改装しました。室内はカウンターなどが設置され、この施設でしか販売しない限定焼酎などが並んでいます。お披露目式では代表社員の協坂齊弘さんが「只見町を訪れるきっかけとなれるよう、魅力を発信したい」と挨拶しました。営業は午前10時～午後4時で不定休。同社が製造している焼酎を1杯30ml、100～200円で試飲できます。



▲施設などを披露した焼酎製造販売会社ねっかの皆さん

通年雇用・担い手発掘を目指す加工・研修施設完成！



▲原材料の保管・商品の加工・パッケージなど作業が行える加工施設

南郷トマトや米などをつくる大倉地区の「有さんべ農園」の新事務所が、4月7日に同地内に完成しました。この施設は事務所機能のほか、加工施設や研修施設などが設けられています。加工施設は、同社で生産した米を使って加工する「切り餅」の商品づくりのほか、従業員の冬の業務として通年雇用につなげる狙いがあります。また、研修施設は大学生などの研修生を受け入れるために宿泊機能を整備し、農業研修を通して農業の担い手の育成を図る狙いがあります。さんべ農園の三瓶やえさんは「今後、郷土食などの加工も考えており、仕事の広がりを目指していきたい」と話しました。

保冷・加工・販売・研修施設を備えた多機能型施設完成！

4月20日、南郷トマトや米などをつくる(株)ライズサプールの新事務所が上福井地区に完成し、地域の方々などを招いたお披露目式が行われました。この事務所は、米などの保冷庫や加工施設・研修施設のほか、売店も設けられています。加工施設では、同社で生産した米を使った「凍み餅」の商品づくりを行い、売店などで販売します。また、売店には自社商品以外にも町内の地場産品が並ぶ予定で、同地域の観光拠点を目指します。お披露目式では、同社代表の目黒大輔さんが「多くの皆さまのご協力により本日を迎えることができた」と挨拶し、お祝いの福餅まきが行われました。



▲新事務所の前で餅まきを行う関係者の皆さん

只見おもしろ学検定

新国守さん(只見)が上級合格者第1号!

3月10日、朝日振興センターで行われた「只見おもしろ学検定」において、只見地区の新国守さんが初めての上級合格者となりました。只見おもしろ学検定は「只見おもしろ学ガイドブック改訂版」から出題されますが、上級は只見町史からも出題され、範囲が広がります。新国さんは、今回2回目の挑戦で合格され、3月15日に増田教育次長から合格証を受け取り、「多くの方々に受験してほしい」と話されました。また、栃木県那須町の方が初級に合格され、町外合格者第1号となりました。



▲増田次長(左)から合格証を受け取る新国さん(右)

ふるさと交流都市・千葉県柏市と交流深める

2018チューリップフェスティバル



▲町の特産品や観光をPRした参加者の皆さん

4月14日、只見町とふるさと交流都市を締結する千葉県柏市の「2018チューリップフェスティバル」があけぼの山農業公園で開催され、町や町内事業者などが参加しました。

多くの方々が訪れたイベントでは、そばやきもちや味付きマトンケバブ、米焼酎ねっかやどぶろくなど地場産品を販売したほか、ステージなどで町の観光PRを行いました。ふるさと交流都市柏市で町の魅力を発信し、交流を深めました。



ふうま
目黒 楓真くん
(小林)



うた
目黒 詩さん
(小林)



しんじ
赤塚 慎志くん
(福井)

虫歯の
ない子



(4月24日
3歳児検診)